## 新春対談



「せたがや音楽研究所」の所長であり、大ヒットした「マッケンサンバ II」で知られる作曲家・舞台音楽家の宮川が良さん。音楽プロデューサーでベーシスト、昨年はロックシンガー ジャニス・ジョプリンの生涯を描いたブロードウェイのミュージカルを日本で総合プロデュースされた亀田誠治さん。そして、若い頃にジャニス・ジョプリンの大ファンだったという保坂区長。音楽の持つ無限の可能性を感じさせてくれるお話となりました。

区長 あけましておめでとうございます。令和5年の新春対談は、音楽に携わるお二人にお越しいただきました。作曲家でピアニストの宮川彬良さん、音楽プロデューサーでベーシストの亀田誠治さんです。

**宮川さん・亀田さん** あけましておめでとうご ざいます。よろしくお願いします。

区長 さて、宮川さんは「せたがや音楽研究所」 の所長という肩書きで、毎回ユニークな企画の 音楽会を開催されています。また、NHKの子 ども向けテレビ音楽番組「クインテット」は 10年以上続いた超人気シリーズでした。

宮川さん 番組が終わってからもう10年。番組を見てくれていた子どもたちは社会人になっていますが、いまだに「あ、アキラさんだ」なんて声をかけられます。とにかくあの番組ではたくさん曲を作りました。オリジナル曲、クラシックや童謡のアレンジ曲、数えると600曲くらいになりますね。

区長 そして宮川さんといえば、やはり「マツケンサンバII」ですが、この曲はどんなふうに生まれたのですか。

宮川さん あれはね、歌えたんですよ。歌詞を見たら、自然に歌えたんです。「叩けボンゴ♪」「オーレ、オーレ♬」って(笑)

**亀田さん** メロディーが降りてきた…という感じですか。

宮川さん 降りてきたというか、知っていたという感じで。1回歌えて、メモも何もしていないのにまた歌えて、3回続けて歌えたので、これはもうOKだなと。あとはゆっくり、今歌っ

た通りに譜面に書いていきました。

**亀田さん** うらやましいな、僕はそういう奇跡 が絶対にない人間です(笑)

**宮川さん** 僕もそんな経験は後にも先にもこの 1回だけです(笑)

## 母親が歌ってくれた子守唄、 十代の頃に夢中になった音楽が原点

区長 亀田さんはスピッツやGLAYから石川さゆりさんまで、幅広くプロデュースされており、ロックバンド「東京事変」ではベースを弾かれています。

**亀田さん** いろいろなことに関わることで、いつもフレッシュな気持ちで音楽を続けてこられている感じですね。

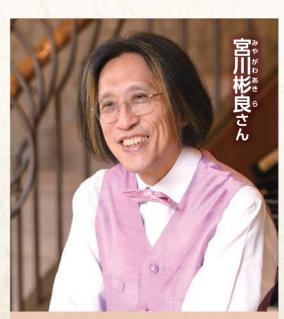
区長 昨夏は早逝したロックシンガー、ジャニス・ジョプリンの生涯を描いたブロードウェイミュージカル「ジャニス」の日本公演総合プロデューサーを務められました。私は若い頃、ジャニスのレコードをすり切れるくらい聴いていて、ジャニスには思い入れがあります。東京国際フォーラムでのステージは素晴らしかったです。

**亀田さん** ありがとうございます。おかげさまで「どうして3日間で終わってしまうの?」と惜しんでくださる声をたくさんいただきました。緊張したのは、本家のスタッフがブロードウェイから観劇に来るんですよ。「誠治、OKだよ」「素晴らしかったよ」と言っていただきま

したが、大人になってもテストってあるんだな と思いました(笑)

区長 作曲もプロデュースも大変なお仕事ですが、音楽の道に進まれたきっかけは何だったのでしょうか。

宮川さん 僕の場合は父が格好良く見えたので… 区長 日本ポップス界の草分け的存在である宮 川泰さんですね。



1961年東京都生まれ。作曲家、舞台音楽家。(公財) せたがや文化財団音楽事業部スペシャルプロデューサー。代表作に「ONE MAN'S DREAM」「身毒丸」「ザ・ヒットパレード」「マツケンサンバII」などがある。2021年には、祝祭音楽劇「天保十二年のシェイクスピア」で第28回読売演劇大賞・優秀スタッフ賞を受賞。演奏活動にも精力的に取り組み、「コンサートはショーである」を信条に、様々な企画のコンサートを日本全国で行っている。